

設 立 趣 旨 書

趣旨と経過

我が国での交通事故の件数は実に年間 100 万件に上るといわれています。単純計算でいえば、30 秒間に一回の割合で交通事故が起きていることとなります。これは驚異的な数であります。それに比例する形で鞭打ち症となる可能性の方が、毎年増え続けるわけであります。我々の周りには、事故以来どうも調子が悪いとか、雨の日には気分が悪い、ひどい方になれば、事故以来家にとじこもりきりになっているらしい、という声は誰もが耳に極身近な会話として聞いている経験を持っているのではないのでしょうか。普通我が国における交通事故後の鞭打ち症というのは、頰椎捻挫として認識されている所があり、長くても 1 年以内には完治するとおもわれています。

しかし現実的に 1 年を越えても症状が悪化する一方で、現時点での医学により諸々の診察検査で異常が見当らなければ、長期にわたる鞭打ち症は不治の病として、上手に付き合うしかないという診断結果をうけたり、その原因を心意的なものと判断され、保険の打ち切りはもとより、精神科（心療内科）にまわされ、多量の薬を処方されている患者も数多く存在します、ひどい方の場合ですと、保険目当ての仮病としてひどい脅迫まがいの圧迫を受けられている患者もいます。これはただ単に交通事故に限ったものでなく、スポーツで頭部や頸部を打ち鞭打ち症になる方も含まれます。一見外見ではどこが悪いのという印象を、医師を含め鞭打ち症を経験したことのない方は、鞭打ち患者に対して認識しがちであります。しかし、頸部周辺に存在する自律神経系統が引き起こす鞭打ち症状（めまい、倦怠感、肩のはり、首の痛み、頭痛、その他）は精神的に気分を困惑するのに充分であり、その苦痛は、やはり経験していないものには理解されないと思われれます。そこで本会設立代表者である中井氏が 1997 年より開設したホームページ「鞭打ち患者応援ページ」に集う仲間が自分の鞭打ちを克服した経験をもとに、若しくは治療過程であっても、御互い励ましていこうという、精神的な支えになっていきましょうという声が自然発生的に生まれてきました、つまり本会活動開始の気運が患者同士の間で芽生え始めて来たのです。実際周りから理解されない患者さんが、自分のことをわかって貰えるという精神的な安堵感は大きく、病気を克服する源となっています。鞭打ち症は病気の名前でなく、症状の名であります、それを引き起こす原因も様々であり、本会に参加し、設立者として参加して下さっている、メンバーの鞭打ち症の原因も多岐にわたっております。

今後鞭打ち症を経験し、周りから疎外され、理解されない方に対し、鞭打ち症を乗り越えられてきた貴重な体験をもつ本会メンバーが、治療の助言や精神的サポートをするなど、更には鞭打ち症に関する情報を発信することで、広く今後社会に貢献、還元できないだろ

うかという考えがメンバーの間から生まれてきたのです。

更に一昨年初頭より、本会のメンバーでもある神奈川県某の病院に勤められる、脳神経外科医であられる篠永医師（長年の交通事故自賠責認定医としての経験をもつ）、長年に及ぶ鞭打ち症で苦しんでいる患者さんをなんとかしてあげたい、という気持ちから御自身の領域である脳神経外科関係論文はもとよりご自身の領域外の医療論文をも読みあさり、その結果として神経内科領域の病気として古くから知られていた「低髄液圧症候群」の論文に目がとまり、次の様な論文の部分に注目をされました、その論文の部分とは「ちょっとした外部からの衝撃でも硬膜というところが裂けて脳脊髄を包んでいる髄液が漏れ始める可能性がある」という文章でした。

実際、2年以上鞭打ち症で苦しんでいる患者さんに一般的に行なわれるMRI検査やレントゲン検査以外で髄液の循環や漏れを調べるRI脳槽シンチグラム検査を行なったところ、腰部より、あきらかに髄液の漏れが発見され、ブラットパッチという治療で、多岐にわたる自律神経症状で苦しんでいたものが、全て改善されてしまったのです、その後この事実と病気の詳しい説明を本会設立者代表の中井氏のホームページにアップロードしたところ反響は大変なものでこの2年近くで80名以上に及ぶ患者がみつきり、完治若しくは全ての患者さんに改善が見受けられているのです。又この患者さんの内約2割の方が「慢性疲労症候群」と診断もしくは疑いがあるとされた方たちであり、全国に20万人はいるであろうと推察される「慢性疲労症候群」患者にとっても画期的な発見であり、閃きであったのです。

設立代表者である中井氏も多量の髄液の漏れが確認され13年に及ぶ鞭打ち症からくる多岐にわたる症状からも解放されています、患者さんの中には長くて30数年、20数年10数年という想像も及ばない状況からこの「低髄液圧症候群」の発見により、治癒されている方もいるのです。現在も診察希望がたえずホームページに寄せられ、長期にわたり、診察日までじっと辛抱強く待つて頂いている状況です。現在この診察検査治療を受診できるのは、全国で数箇所しかありません、知名度も殆ど知られていませんので、当然、自賠責や損害賠償にかかわる保険会社も事故との因果関係を認めようとしません。そこで篠永医師の元で鞭打ち症から改善された有志があつまり、潜在患者数十万にはいるであろう、医師から見放され、社会から虐げれつづけている患者さんのために、医師と患者が同じ目的に立ち相互協力のもと、一市民活動として「低髄液圧症候群」を啓蒙し、多くの患者さんが健全な健康生活をおくれるように支援していこうとなり、その際やはり、個人や任意団体より法人資格をとり活動したほうがより有効と判断しNPO「鞭打ち患者支援協会」を設立決定に至ったわけでありす。

尚この発見（低髄液圧症候群と鞭打ち症の関与は非常に深いという事）は世界でも知られておらず、世界には数千万という患者がいるであろうと推察されます。今後非営利団体として国際的にも協力関係をもちグローバル的な運動へと進めていきたい所存です。

平成 14 年 月 日

特定非営利活動法人 鞭打ち患者支援協会

設立代表者 住所 和歌山県和歌山市

氏名 中井 宏